

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		家電量販店（経営者）	・エアコンを除けば前年並みの売上であり、特にテレビ、冷蔵庫、洗濯機などは大きく売上を伸ばしているため、エアコン商戦が終われば大いに期待できる。
		乗用車販売店（総務担当）	・秋口には看板車種のモデルチェンジと新型ハイブリッド車の新車種が新たに投入される予定であり、これらの受注に期待ができる。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地元の製造業企業の雇用抑制は、4、5月が一番厳しく、ここへ来てやや上向きに動き始めており、波及することを期待している。
		一般レストラン（スタッフ）	・今夏は冷夏との予測もあり、8月30日の総選挙までは落ち込むと考えており、8月は厳しくなりそうである。昨年9月中旬以降に事故米や米国リーマンブラザーズ破産の問題で低迷したことから、今年はやや戻るだろうと考えている。
		旅行代理店（従業員）	・9月の好調がそのまま10月以降の予約状況を押し上げている。燃油サーチャージ・新型インフルエンザの復活が懸念事項であるが、事前受付は海外旅行を中心に120%程度で推移している。
		通信会社（社員）	・パケット割引、通話先限定月額サービス等の新サービスが開始されるため期待できる。
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・地方でも新型インフルエンザの感染者数が徐々に増えており、外出を控える傾向が強まる。生活必需品以外の消費、特に商店街でウィンドーショッピングをする傾向は減少することが懸念される。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・中元の繁忙期にあって、パイの取り合いで他社より多く売れたと実感しているが、決して客の購買意欲が上がってきているわけではない。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・夏場は捕れる魚の種類も量も減少するので厳しい。8月は特に総選挙があるので外食関係は客入りが悪くなる。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・夏の賞与も期待できず、現状から好転するとは考えにくい。
		百貨店（営業担当）	・来客数に依然回復の兆しが見られず、客の買い物の仕方も厳しさに変化が見られない。一方、店側でも単価の引下げを積極的に行っており、回復の兆しは見られない。
		スーパー（店長）	・夏季賞与減少のなか、ギフト商戦に苦戦を強いられている状況であるが、今後総選挙などで政権交代したとしても良くなる材料が見当たらない。
		スーパー（店長）	・内食志向の影響もあり、お盆や中元のギフト需要も低価格化が進み、さらに数を抑えて購入している。消費者のこの傾向に当面変化はない。
		スーパー（営業担当）	・天候と客の買い物動向が密接に結びついている。
		コンビニ（経営者）	・タスポが導入され1年以上が経過し、既にその効果は薄くなっていることに加え、客の低単価志向も続いている。また、商品の単価についても変化のない状況が続いている。これらの要因で売上が上昇する気配が見られない。
		衣料品専門店（経営者）	・来客数はあるものの、依然として買上率、買上単価の低下が続いており、好転の兆しが見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・先行きに不安があり、車にかける予算が立てられない不満を訴える客が増えてきている。全体として購入費、修理費用共に予算の圧縮傾向が顕著に現われている。
		乗用車販売店（経理担当）	・新型ハイブリッド車の納車が来年4月以降という状況であり、今後の販売動向が気になりである。
		自動車備品販売店（従業員）	・高速道路料金引下げによるETC特需の恩恵にも陰りが見られ、上昇要因が見られない。
		観光型旅館（経営者）	・夏休み以降の団体旅行の予約数が少なく心配であるが、個人旅行は低額商品を中心に予約がある。
		観光型旅館（スタッフ）	・8月以降の予約状況は、10月が若干良い以外は前年比60～70%と回復の兆しは見えてこない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・レストランでは宴会の二次会利用の低迷が続く。宿泊はビジネス利用の低迷が続く。
		タクシー運転手	・一時期のような悪い状況は脱したように感じるが、回復のスピードが遅く、節約志向がしばらく続く。
タクシー運転手	・夏休み、お盆休みなどが続くが、高速道路料金引下げが続く限り、自家用車による観光客が増え、タクシー利用客は減少する。		

	通信会社（職員）	・政局が安定するまでは、家計費の削減努力をする消費者の傾向は続くものと思われ、大きな進展は期待できない。
	通信会社（営業担当）	・景気低迷、買い替え期間の長期化など好材料は少ないものの、新機種発売の影響でなんとかバランスを取る予定である。
	通信会社（役員）	・インターネットサービスの分野では、大手通信業者との競争はますます厳しくなっている。しかし、契約数の増加の勢いは鈍っておらず、結果的にパイの増加につながっていると考えられ、この勢いはもうしばらく継続するものとみている。
	通信会社（営業担当）	・新商品が発売されるまでは現状維持と思われる。
	その他レジャー施設（職員）	・会員の新規入会者数が低位で安定しており、入会見込み者の反応及び現在の地元企業の業況から判断すると新規入会者数の増加は期待できない。
	美容室（経営者）	・美容業界はここ数年客数が減少傾向にあり、この傾向が変化する兆しは感じられない。
	住宅販売会社（従業員）	・個人消費が改善する要因である企業の業績改善が見られない。また収入カットも見られ、依然として改善の要因が見当たらない。
やや悪くなる	百貨店（売場主任）	・総選挙の影響により消費が一時停滞する。天候の長期予報も9月下旬あたりまで気温の大幅な低下が見込めず、需要喚起につながりにくい。
	百貨店（営業担当）	・初秋・秋にかけ、メーカー側の供給体制が前年比60～70%に落ち込んでいる。ファッショントレンドに関する部分は、回復に力強さが全くない。
	スーパー（店長）	・来客数が下げ止まらない、客単価が上がってこないことなどに加え、近隣の企業の倒産などもあり、明るい材料が見当たらない。
	スーパー（店長）	・不透明感から脱却できない。収入面での減少予測が購買動向を抑制している。景気好転材料もなく現状の不況感が強い。
	スーパー（総務担当）	・レジャー関連の商品の動きが前年の5～6割と低迷している。7月の天候不調が8月にも影響し、レジャー関連産業の低迷が景気に悪影響を及ぼす。
	コンビニ（経営者）	・冷夏の予想で季節物の売上が厳しいことが予想される。また、秋口には新規の競合店が商圈内に開店することが予定されており、ますます競争が厳しくなる。
	コンビニ（経営者）	・客のコンビニ弁当離れの動きが定着し、売上の前年比は当面厳しくなると予想している。
	衣料品専門店（経営者）	・取引しているメーカーの倒産が目立ち、秋冬物の商品供給がタイトになっていることに加え、生き残っているメーカーも減産方向で進んでおり、全体として商品の仕入れに支障をきたすほどになっている。
	高級レストラン（スタッフ）	・国政選挙があると大型の宴会が減るため穴埋めができない。ゴールデンウィーク以降観光客の動きが鈍化しているが要因が分からない。
	スナック（経営者）	・製造業関係の客が多いため、回復が遅く、当分厳しさが続く。
	テーマパーク（職員）	・予約状況は、団体・グループ及び海外からの観光客はやや回復傾向にあるが、個人客の動きや消費動向は厳しくなると予想される。全体としてはやや悪い方向に向かっている。
	競輪場（職員）	・1日当たりの入場者数、売上、購買単価は共に上昇する気配がなく、横ばいか下降線のどちらかとなっている。
	住宅販売会社（経営者）	・見込み客数、問い合わせ客数がやや減少している。
	住宅販売会社（従業員）	・受注件数、1棟当たりの金額とも減少と回復気配にない。
	住宅販売会社（従業員）	・一部の銀行では融資金利が上がるとも言われ、今後ますます客の動きが鈍くなることが考えられる。
住宅販売会社（従業員）	・来客数が非常に少なく、今後2、3か月で回復することは見込めず、販売量は現状よりさらに減少する予想をしている。	
悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・総選挙が予定されており、先行き不透明感が増してきている。
	コンビニ（店長）	・チェーン店のほぼ全店で前年の売上を下回っており、さらに前々年と比較しても悪い。天候不順が続き、天候により売れる商品が全く売れることなく、極端に下がっている。このまま天候不順が続くようであれば回復はない。

		住関連専門店（店長）	・会社としても販促の仕方を変えたりしながら運営をしているが、回復の兆しがなかなか見えてこない。
		旅行代理店（従業員）	・高速道路料金引下げに伴い、バス旅行をはじめ、新型インフルエンザの流行や燃油サーチャージ復活の懸念により、団体旅行が大幅に減少している。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般機械器具製造業（総務担当）	・ものづくり中小企業製品開発等支援補助金に多数の客が申請をしている。承認されれば機械受注につながると予想している。
		金融業（融資担当）	・在庫調整、生産調整が既に一巡し、生産現場では雇用の過剰感がかなり薄らいでいるように見受けられる。2、3か月後は現在よりも良くなる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	・先行き不透明な状況がまだまだ続きそうな気配である。分野によっては再開品番も見られるが勢いに欠ける。また、量を伴うものについては価格対応を迫られ、売上確保については厳しい状況が続く。
		繊維工業（経営者）	・非衣料関係では、在庫調整が進みしだい期待ができるものの、衣料関係は消費の低迷で非常に厳しい。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅の実需要が回復してくるのが半年以上先と見ているので、3か月先では現状と変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・一部で回復の兆しの報道等もあるが、当業界は在庫調整にまだ少し時間がかかりそうである。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・半年単位で見ると景気は上向いていると感じるが、2～3か月単位では、極端な落ち込みはなく、ほとんど横ばい状態である。新製品に対する客の発注状況が芳しくない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・受注量の見通しは、以前に立てた計画よりは多少上回っているものの、安定感はまだ見込める状況とはいえない。
		建設業（経営者）	・最近、当社が下請をした会社の社長自らが滞っている支払いの延期を訴えてきた。このように、資金繰りに困っている中小建設会社は沢山あるが、景気対策での公共事業が出てくれば、少しは資金繰りがついてもう少しは生きながらえることができるだろう。
		不動産業（経営者）	・個人部門、法人部門を問わず不動産取引が止まっているとの声が多く、当面この状況が続く。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	・都市圏の折込出稿の状況をみると現在前年比で90%前後である。この流れが2、3か月後に郡部に波及してくることが考えられる。
		司法書士	・事業用資金の担保権設定や、会社設立の案件がほとんど無い。
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・低価格化傾向が強くなっており、主力商材の5%程度の価格低下が、今後、顕在化する懸念がある。このため、秋・冬及び年末商戦に向けて収益性に不安を抱いている。
	金融業（融資担当）	・いったん落ち込んだ受注量が安定的に回復するには、まだ時間が必要である。	
	税理士（所長）	・景気刺激策でエコポイントやエコカー減税などが行われているが、一時的な施策に過ぎない。このような施策で恩恵を受ける業界が、国内で設備投資をするには、円高水準が厳しい状況にある。雇用が増える見通しもなく、取引先の設備事業者も大きな受注が期待できない状況にあり、持続的な成長には弱い。	
悪くなる	建設業（総務担当）	・工事発注件数の減少が続く中、引き続き受注確保のため業者間でし烈な受注価格競争が続くと予想され、さらに厳しさが増してくる。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる		
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・正規社員の急な退職に対する一時的な求人の申込み以外は発生しそうもない。あっても、来春新卒採用までの短期間に限られる。
		人材派遣会社（社員）	・派遣求人数の回復の兆しは見当たらず、当面この状況が続くと思わざるを得ない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・先々を考えた正社員の募集が全く増えない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・社会が現状に慣れてきたように見える。現状維持が限界と考えられる。
		職業安定所（職員）	・雇用調整を実施している事業主等にたずねても、先行き不透明との回答が多い。
職業安定所（職員）	・前月に引き続き、中小企業からの雇用調整助成金の相談が多い。		

	民間職業紹介機関（経営者）	・各企業は、設備投資と人の採用については慎重である。特に定期採用に関しては必要最小限の求人になっている。
やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-